

世界で5番目の温室効果ガス排出国

石炭依存に「どうせ」は禁句！

翻訳が難しい日本語に「せめて」「いっそ」「どうせ」という副詞がある。例えば次の三つを考える。

1、「これだけできないのなら、『せめて』これだけはしておこう」。2、「これだけできないのなら、『いっそ』やめてしまえば」。3、「これだけできないのなら、『どうせ』それもできないでしょう」。

「これだけできないのなら」という枕詞をつけただけで、「せめて」「いっそ」「どうせ」が、どれも前記のような使い方になる。

今年の夏は異常であった。日本上空の7月下旬から8月上旬の記録的高温は地球温暖化の影響がなければ起こり得ず、影響があっても60年に1度の非常にまれな現象だったと気象庁気象研究所や東京大、京都大の研究チームが発表している。

さらに世界平均気温が、今世紀初めより1度上昇すると日本の線状降水帯の平均的な年間発生回数は1.3倍になり、3度上昇すると1.6倍に増加すると予測。50年に1度程度の頻度で発生する大雨も3度上昇すると全国的に増えるという。

(9月21日・時事通信)

もちろんこのような異常は、何も日本に限ったものではない。地球の温暖化は年々加速している。そ



豊作なら熊も山にいるだろうに

の結果豪雨、洪水、干ばつ、熱波、サイクロン、降雹(こうひょう)と、今日多くの自然災害が地球を襲っている」と村山貢司氏(気象業務支援センター専任主任技師)は警鐘を鳴らしている。

OB・Gニュース9月号でも触れた、国連事務総長の「地球温暖化時代は終わり、地球沸騰の時代が来た」とのメッセージがある。9月20日、アメリカの国連本部で「気候野心サミット2023」が開催された。日本の岸田首相はG7議長国の代表として演説の草稿を用意していたにも関わらずその機会が与えられなかった。それには次の経過がある。

4月に開催された「札幌の7カ国エネルギー環境相会合」を前にして、議長国である日本が提示した共同声明原案に欧米勢が反発し、採択されなかった。いわゆる「二酸化炭素(CO2)排出量の多い石炭火力発電所の全廃時期に日本は踏み込んでいないことに対する批判である。つまり2022年の議長国であったドイツが、事前協議で『30年までに段階的廃止』という年限を区切った石炭火力発電の廃止を提案した。これに対し30年代以降も同火力を活用するという日本の反発と抵抗があつてのことと受け止められている。

「電力は必要、不可欠だ。よって既にある設備や

仕組みは無くせない。また生かして使わなければならぬ。それが日本の電力政策だ」という政府と電力業界の方針。加えて「今の電力の依存による快適な生活は欠かせない」という私たち国民の心情がある。エアコンの利いた快適な場所で美味しい食べ物を頂き、そしてその多くが捨てられる。そこに『せめて』今ある設備や仕組みは残せないか」という国民の意識と一致するとき、そこに『どうせ』それができないのなら『いっそ』のこと国際的約束など忘れてしまおう。そして日本は現実路線で行こうじゃないか」となっていないかということである。

しかし地球規模の猛暑、山火事、水害、干ばつが地球の温暖化によるものであるとするなら「どうせ・せめて・いっそ」では済ますことができない地球沸騰の時代である。ならば「せめて」次の世代に、この負の遺産を引き継がせてはならない。

そのことは「誰もが否定することのできない世界的な異常気象から人類が生き延びるための緊急、かつ共通の課題とするなら『知恵と言葉の外交が必要』と考えるが、どうだろうか。(文責・降矢)



カンパありがとうございました。

県内の読者より切手のカンパがありました。

(事務局)

【「たわふん」

気づいたこと・感じたこと



読者からの寄稿や報告は匿名としていますが、今般、第19回参議院選福島選挙区候補者として闘いました講師「神田香織さん」からのメールがありましたので、記名にて掲載をいたします。

(編集事務局)

戦争反対の思いを

若者に繋いでいきたい

休むことなく発刊続けるのは並大抵ではないと思います。本当にすこいことです。

二ユースに、提言の場を設けて参加型にして多くの方の訴えを共有することがますます必要ですね。75歳の壁、私はまだ少し間がありますが、それまで日本が持つかどうか…。とにかく呆れ果てても、諦めないでがんばるしかありませんね。

とはいっても無理はできませんが(笑)。

9月16日には、郡山の安積歴史博物館で「はだしのゲン」公演がありました。クーラーがなく、暑くて大変でしたが150名の方が来てくれました。

講談の後は戦争体験者と若者とのディスカッションも入れました。戦争反対の思いを、若者に繋いでいきたいものです。いい1日でした。



神田香織

聞く耳を持ったはずの岸田首相

「新しい資本主義」とは？

毎日新聞10月8日「時代の風」(長谷川真理子・日本芸術文化は振興会理事長)を読む。北極圏では地球の他の地域の4倍から10倍の速度で温暖化が進み、大量の氷が解けているという。南極でも同様に大量の氷が解けペンギンが何千羽も死んでしまったという。そして長谷川氏は指摘をしている。20世紀を通じて誰もかもつと金持ちになりたい。もつと沢山な物を所有したいという要求に、資本主義経済を煽り、おもねる働きをしてきた。その結果が温暖化であり、地球環境の大変動であると。

安倍元首相の一連の景気刺激策と称する大規模な改革(アベノミクス)は世界3位の経済大国を果たした。しかしそのインフラ整備などへの政府支出の増加、さらに企業に対する税制優遇の実施などにお金を注ぎ込み、雇用の増大という名目を誇大に口にしたものの、その実態は非正規労働者の増大であり、果ては「雇止め」という労働者切り捨ての実態を生み出したことは忘れられない。

そして「菅内閣」に続き「岸田内閣」の誕生。とりわけ岸田首相の「聞く耳を持った、新しい資本主義」という謳い文句に国民は「政治の流れ」の変化に期待を持ったことは事実である。しかし就任2年となった岸田文雄首相は、世界第二位と言われる軍事予算の増大に加えて、次世代原発への建て替えや既存原発の60年超運転を認める方針を決め原発再稼働を押し進めている。それでいいのだろうか。そしてかつてない内閣支持率の低迷は隠せない。

それでも自民党の麻生副総裁が24日の福岡市内での講演の中で岸田首相への評価を述べている。

「これは岸田さんのリーダーシップはあるんじゃない？。岸田さんのようななんとなくきわめて誠実そうに見える顔。リベラルそうに見えるあの顔の方が世の中に受けるんじゃないの？」と。

これに対し私たちはどう判断をするのか。年内に解散、総選挙があるとすれば、この麻生副総裁に答えを返さなければならぬ。

東電追加賠償支払い完了は

約2割にとどまる…

2011年に発生をした東電福島原発の水素爆発に対する追加賠償の対象者にその手続きをする書類が送付されています。しかし多くの皆さんには届かず、その細部の事情を知るために指定をされた電話への問い合わせをしても、その通話は常に通じない状況にありした。過般の私たちの集まりの中でそのことについての発言がありました。

そして今般、次の報道がありましたので報告いたしますので参考にしてください。

「東京電力によりますと、追加賠償の対象となる、およそ148万人のうち、これまでに支払いが完了したのは30万6000人で対象者のおよそ2割にとどまっています。また、対象者の3割にあたる48万人ほどの住所が把握できていないということで、原発事故から12年を経過し、転居した人が多くいるためだとしています。東京電力は追加賠償については請求期限を設けておらず、請求を済ま

せているおおよそ76万人分の支払いは今年度中に完了させたいとしています。」

(9月28日・NNN全国ニュース)

また前記の集まりの中でも、請求書の記入ミスによる返却というケースも多々あるという発言もありました。速やかに書類の修正を済ませて届け出をするようにお勧めいたします。なお、追加賠償に関する問い合わせ先の電話番号は次の通り。

(0120-926-470)

高齢者の居場所つくりを考える

老々世帯、もしくは独居世帯における「高齢者の居場所つくり」(佐野 豪著)の冊子を読みました。私自身もいずればその境遇にあると考えれば参考にしたと考えましたので報告をしたいと思えます。「母は意識的か、無意識的かチャレンジしてきました」があります。それは活字を身近におくこと、その努力です。新聞や本を読むことから始まり、スケジュールを手帳に記入をすること、そして家計簿や日記を書くことを習慣としました。そうした活字を身近にする習慣をつくることにより、病院に入院をしてもカレンダーを張り、日々の記録を記入していました。さらに便箋、封筒、切手、ハガキなどを身近においていました。そして住所録の代わりに今まで頂いてきた手紙やハガキをとって置きました。また時々興味のある記事を切り取っていました。私も、活字を大事にした母の想いを受け継いで行きたいと思えます。

提言と報告のひろば



■今年の夏も熱中症にならずに過せました。ニュースにあつた信号が渡りきれなかった問題ですが、信号機の青の時間を、エレベーターのように「延長ボタン」があれば良いと思います。現実には「延長ボタン」がありません。また私の地区では企業の門前で党の宣伝物を配布できるところはありません。配布できるのは駅頭か、戸別配布です。9月には、社会新報の号外を自宅周辺に200枚をポストに投函しました。9月15日には駅頭で、近隣の総支部の応援で社会新報の号外(マイナ保険証はいらぬ)を配布。党员9名、地区労から1人の合計10人で行なうことができました。本来は、定期的にできれぱと思うのですが、実行出来ていません。

■この国が音を立てて崩れるのか、わかりません。多くの人は気が付いてはいないのか? 思い出したいのか? 日本の行く先がどうなるのやら。

■関東大震災から100年、政府、東京都知事の対応には異議が有ります。そういうことを知らせない、教えない歴史修正主義や人権蹂躪は、過去の話ではなく現在の話だと思います。又未来に続けてはならないと思います。ニュースありがとうございます。

■暑さ寒さも彼岸まで、ようやく本格的な気温となりました。先日は「市民検診」の結果も出まして一応「問題なし」となりましたが毎日が勝負のような気がします。「福島市の敬老を祝う会」の招待状

も頂きましたが欠席しました。毎年高齢者が増加し、市の予算も逼迫し記念品も以前より大分貧弱化したようです。これからはバスの無料化も見直しになるのではないのでしょうか。今の所バスの利用はほとんど利用していませんが、免許を返上してからがどうなりますか。但し、それまで「健在」ならばの話ですが。とにかくお互い健康に留意しましょう。

■妻が亡くなり、家の近くにある「納骨堂」を購入しました。妻も生前から無宗教の納骨堂を望んでいました。私の分も入れられるようなものになりました。死後の後始末は意外と大変なことがわかりました。幸いにして娘の嫁ぎ先で父親が亡くなり、死後の様々な手続きを経験していることもあり娘に手伝わってもらっています。そして、相続に関すること、が意外と面倒であることもわかりました。例えば、預金について銀行の通帳からの出し入れが止められる。残金について誰が相続するのか、その手続きもかなり手間暇がかかることもわかりました。事前にしっかりと勉強しておくことに気づかされた。エンディングノートなど関心もなかったのですが、必要なことですね。そんなことで苦戦をしている毎日です。

■郡山市議選「苦労様でした。私も、いとこやおじ、叔母がいましたので直接お願いしてきました。残念でした。会津もようやく涼しくなってきました。農家はすでに稲刈りに入っています。

■OB・Gニュース10月号読ませて貰いましたが、高齢者になって社会の動きや政治の事等には感度

が鈍くなっているなあ」と思っています。仕方ありませんね。来月のニュースをお待ちしています。

■ ニュースとは関連がなく恐縮なのですが、最近気になっていることを長々と書いてしまいました。それは報道についてです。事件、事故、発表報道ばかりのニュースはほんとに視る気がしない昨今です。ジャーニズの性加害問題について連日報道がなされていますが強い違和感があります。「メディアの沈黙」という指摘に対して、メディア自身の検証と総括が全くなされていません。NHKはクロージアアップ現代で特集し声明を出して、「当時この問題に対する意識が低かった」としました。事実として述べただけで、原因がどこにあったのかという検証・総括は全くなされていません。現役時代、問題発生時に「なぜ？」を重ねろ」、そうすれば真の原因に辿り着けると教わりました。NHKにそのような姿勢はなく「重く受け止める、今後そのようなことが無いように務める」だけです。他のメディアも同様で検証も総括もするつもりは無さそうです。個人の意識に帰結させては何の解決にもならず、構造的な問題にまで「なぜ？」を重ねなければなりません。報道部門がエンタメ制作部門と同一の経営判断の元にあることもその一つでしょう。ジャーニズ問題が気になるのは、芸能界にとどまらず政治の世界でも同じだと思っております。政治に対する忖度が身にしみ付き、政治からの独立性の理念を下においてしまうメディアには存在価値はありません。今回のきっかけを作ったBBCも日本メディアの報道の姿勢を問うています。日本の報道の自由

度の評価が極めて低いのはなぜでしょう。放送法に関する捏造発言があつた時に、メディアの死命を制する問題であるはずなのに大手メディアはスルーに近い状態だつたことを想起させます。現在の社会状況、政治状況に少なからぬ責任を負っているはずのメディア。特に報道が自らの理念を再構築できないとメディアの将来はないと、一連のジャーニズ報道で感じます。

■ 私の地区では、OB・Gニュースを現地の社民党党員の努力で13部を印刷し、自宅配布が続けられていることを報告いたします。

■ 我が郷里、福島県の三春町の名は「梅桃桜が一度に咲くから『三春』……ということになってはいますが、実際には梅がまず咲きます。実家の庭と畑には合計10本の梅の木があつて、香り良し、眺め良し、そして、特に畑の5本は大粒の実をたくさん付けてくれます。とはいえ、豊作だとしても1人では採りきれませんし利用しきれません。今年がまさにそんな感じ・友人たちにその話をしたら、「欲しい！ 採りに行くよ」とあちこちから手が上がり、遠くは東京・埼玉の友人4人も、わざわざ車に乗り合つてやつてきて、あつというまに50kg以上採つて、大半を持ち帰ってくれました。三春在住の同級生は、こちらから頼まなくてもときどき様子を見に行つて、「採り頃」予測を知らせてくれるとともに、梅酒用に青梅、梅干し用に熟れた実とともに、梅酒用に青梅、梅干し用に熟れた実と、時期をずらして数10kg収穫し、ついでに枝も剪定してくれました。彼女の観察と予測がなければ、遠来の収穫応援隊も時機を逸するところでした。

収穫もさることながら、じつは実家には年代物の梅干しが4甕も眠っていました。これは東京から来た友人がビニール袋に小分けして持ち帰り、「価値」をわかってくれる知り合いたちに手渡ししてくれています。その一部は、遠くブラジルまで行つたそうです。日本からブラジルに移住した最初のころの人たちにとっては、梅干しは願つても手に入らない懐かしい「日本の味」だつたそうで、そんなエピソードがお礼状とともに返ってきました。漬けたのは母だったのか、伯母だったのか。まさかブラジルまで届くとは思っていなかったでしょうね。こうやってビンテージものの梅干しが捌けたので私は人生初の梅干し作りができました。もうひとつ、両親の最晩年には、私は実家の庭にブチトマトを植え両親の様子を見に訪ねてくれる叔父夫婦や叔母が、好きなかだけ採つて持ち帰れるようにしておきました。彼らが見守り続けてくれたおかげで東京住まいの私でもなんとか遠距離介護ができました。両親とも他界しその用も済んだので今年には苗は買わず。でもちゃんとトマトは収穫できたのですよ。というのは昨年のブチトマトの実がいくつか熟して落ちて、その種が発芽して育てて実を付けてくれたからです。帰省時の食卓を賑わすには十分な量が採れました。東京からの通いで畑をなんとかするには友人たちの助けが必須です。来年もなんとかかなりそうな気になってきました。

